

2. Canon Apolo, Kahinju, Kamengoの3校における清潔で安全な飲料水へのアクセスの強化(ウガンダ)

- 実施団体: RWENZORI AID (#109)
- 実施地: ウガンダ フォートポータル市ブクク区キャノン・アポロ地区他2カ所
- プロジェクト費用: 3,157ドル(JWFファンド1,500ドル、団体1,097ドル、受益者560ドル)
 予算: 3,067ドル(JWFファンド1,500ドル、団体1,007ドル、受益者560ドル)
- 受益者数: 3,489人(男性55人、女性84人、子ども3,350人)
- 実施地の水問題: ウガンダにおける清潔で安全な飲料水へのアクセスは、地域社会の主要な問題の一つである。多くの学校には、煮沸消毒をしなくても水を安全に飲めるようにするための浄水器がない。今回の西南部のフォートポータル市内では、自己水源のないCanon Apolo校と、安全ではない水を飲まざるを得ないKahinju校とKamengo校を対象とした。

【実施前】



自己水源も雨樋もなかったCanon Apolo小学校



安全でない水源から水を汲む生徒



ウガンダ国産セラミック浄水器

- 主な活動内容: Canon Apolo小学校への10,000リットル雨水貯留槽・水栓1基とKahinju校手洗い場1カ所設置。また、浄水器6台をフォートポータル市内のCanon Apolo, Kahinju, Kamengo小学校に2台ずつ設置した。衛生クラブ、学校運営委員会における維持管理・WASH衛生啓発活動5回、生理用品実習7回の実施。
- 特長(持続性): 学校が主体的に施設管理運営をするために料金徴収の導入、学校と共同体がWASH施設を継続運用する上で必要な事項の研修等を実施して、支援を継続する。
- 実施団体: 西ウガンダに拠点を置く非営利団体。2016年に設立。地域社会、学校、病院におけるWASH(給水・衛生・衛生管理)環境の改善プロジェクトを実施。国内・欧州・日本水フォーラム資金を活用して30,000人以上の支援実績あり。

2. Canon Apolo, Kahinju, Kamengoの3校における 清潔で安全な飲料水へのアクセスの強化 (ウガンダ)

【実施中】



現地説明



雨水貯留槽基礎工



雨水貯留槽設置工



雨樋の設置



生理用品作り実習



衛生啓発研修



浄水器組み立て

【実施後】



Kahinju校手洗い場
水栓4個



Canon Apolo校
雨水貯留槽引き渡し



雨水貯留槽水栓の通水



Kamengo校浄水器引き渡し



Mr. Kituuku George (54歳)

校長として受益者となる機会をいただき、心より感謝申し上げます。今回、雨水貯留槽が設置され校内で安定した水供給が可能となりました。浄水器のご提供により、生徒たちは安全でない水を飲まなくてよくなりました。女生徒は自分たちで生理用品を作る実習をして、月経衛生管理の向上につながると期待されます。水施設の整備と研修を実施して下さった日本水フォーラムおよびRwezori Aidに心より感謝申し上げます。ご支援は、本校の生徒たちに大きな変化と恩恵をもたらしています。



Ms. Kajumba Molly (35歳)

衛生クラブの担当として、ご支援を大変うれしく思います。生徒たちは、水を求めて長く歩く負担から解放されました。特に、女子生徒が生理用品づくりを学び月経衛生を適切に管理できるようになったことは大きな成果です。保護者が生理用品を購入できず学校を休まざるを得ない生徒もいたのです。今回の支援は、生徒たちにとって大きな助けとなっています。



Ms. Kugonza Catherine (11歳)

貯水槽と浄水器をくださった日本水フォーラムとRwezori Aidに感謝します。これで清潔で安全な水を飲むことができるようになりました。これまでは水探しに長く歩かなければなりませんでしたが、今では手洗い施設ができました。私は食事の前後やトイレの後には、きちんと手を洗っています。



Ms. Kajumba Rose (31歳)

浄水器をくださったRwezori Aidと日本水フォーラムに感謝します。これまでの本校では、赤痢の発生と生徒の欠席が多かったです。生徒たちは遠くまで水汲みに行くのを避けて近くにある湿地など安全でない汚れた水を利用することもあって、水系感染症は発生しやすかったです。